

自然システム学専攻	研究分野	植物発生生物学	Lab. ID NS01
研究室Webサイト	http://plant.w3.kanazawa-u.ac.jp/		
研究課題の概要			
<p>植物は地質時代を通じて多様化し、多様化は現在も続いています。私たちは、植物がどのように進化して来たか、多様性がどのようにしてできたのかを、分類学、系統学、解剖学、発生生物学の手法を用いて解明しようとしています。現在は、初期陸上植物にフォーカスし、主にコケ植物を用いて、1)3Dパターンニングや組織分化など形づくりのメカニズム、2)生殖器官の共通性と多様性、3)発生学的データと分子データとに基づく基部陸上植物の大系統の解明について研究を進めています。</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
<p>[全学生]生物学のあらゆる事象に興味を持たなければなりません。能動的に研究を進める(ようになる)こと、研究の過程で新発見をすることを求めます。根拠に基づく議論を歓迎します。また、自分の研究をわかりやすく伝えることにも重点を置いています。</p> <p>[博士前期]教員は研究可能なテーマを提示します。もちろん、自分でテーマを提案してくれても結構です。自分で立てた研究計画に従って問題を解決することを求めます。</p> <p>[博士後期]自分で研究テーマを見つけて下さい。教員は指導者ではなく、批判好きな同僚の一人です。</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>学生にはそれぞれ、研究機と実験台を用意します。週1回のセミナーがあり、研究の進捗を報告します。</p>			
教員からのメッセージ			
<p>研究はパズルに似ています。ピースは、自分のデータ、関連分野の過去の研究成果はもちろん、一見関係無さそうな分野の研究成果、会話の際の誰かの意見など、あちこちに存在しています。ずっと考えていると、突然ひらめいて、ピースがつながる瞬間があります。その瞬間の喜びを味わって下さい。</p>			
最近(過去3年間+必要に応じて)の修士論文題目			
修了年月	タイトル		
2021.3	シロイヌナズナにおいて核内RNA代謝の異常により誘導される新奇細胞周期チェックポイントの提案		
2020.3	ヒメツリガネゴケにおける並層分裂を誘導する転写因子LASの解析		
2019.3	ゼンマイ属植物の温度嗜好性とその分布と種分化に関する意味		
2018.3	ヒメツリガネゴケの葉の形態形成におけるSHORT-ROOTの機能		
2017.3	金沢市に分布する中新統犀川層の花粉分析		
2017.3	Classification of genus Pinus (Pinaceae) based on anatomical characters of cone scales (球果鱗片の解剖学的特徴に基づくマツ属(マツ科)の分類)		
2016.3	日本産セリ科シシウド属植物の繁殖様式の進化		
2015.3	シロイヌナズナの胚珠形成におけるClass III Homeodomain-Leucine Zipper遺伝子の機能解析		
2014.3	胚珠の雌蕊化を抑制する機構の解析		
2013.3	ヒメツリガネゴケの葉の形態形成における <i>PpSCR1</i> の機能の解明		
最近(過去3年間+必要に応じて)の博士論文題目			
修了年月	タイトル		
2014.3	Post-zygotic Hybridization Barriers in Rice Endosperm (イネの内乳における生殖隔離機構の解析)		
研究室連絡先メールアドレス	小藤 累美子 <kofuji *at* staff.kanazawa-u.ac.jp>		